



## 空間に手を伸ばして場をつくる、複数の顔を持つ家具

### 公共空間の日常と祝祭、そして特有のスケール

高架下広場などの公共空間は、日常の中で通過する場所として使われる場合もあれば、イベントが開催され祝祭性を帯びることがあったりと、使われ方がシーンにより大きく変化します。また、空間のスケールも、広いようでありながらも、完全に自由な広場とは異なり、空間を規定する要素との関係があります。

### 広がりを持つ場が人と空間をつなぎ、その場所にやすくなる

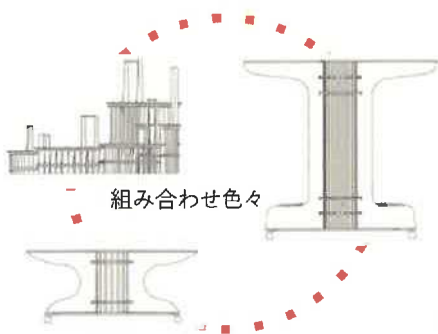
そのような特徴のある場には、空間に向けて少し手を伸ばし場をつくり、公共空間のスケールにふさわしい広がりを持つ要素があれば、公共空間の滞在性が、より上がるのではないのでしょうか。

### 要素の組み合わせの変化が、利用者に新たな使い方を想起させる

また、複数の要素を組み合わせ、それらの配置や使い方によって、利用者にまた新たな使い方を想起させる、そのような、複数の顔を持つ要素であれば、様々な利用に対応しながら、その場の表情や雰囲気を変えてくれるのではないのでしょうか。

**この試みは、公共空間における人と空間をつなぐ場のありかたへの提案です。**

このプロジェクトは、静岡文化芸術大学教員特別研究(令和4年度)の助成を受け、「半屋外公共空間における仮設物のデザインに関する研究—浜松市中心市街地を対象として—」の一環として行い、設置場所である新川モールの指定管理者であるHACK、および鈴三材木店の技術協力を得て実現しました。

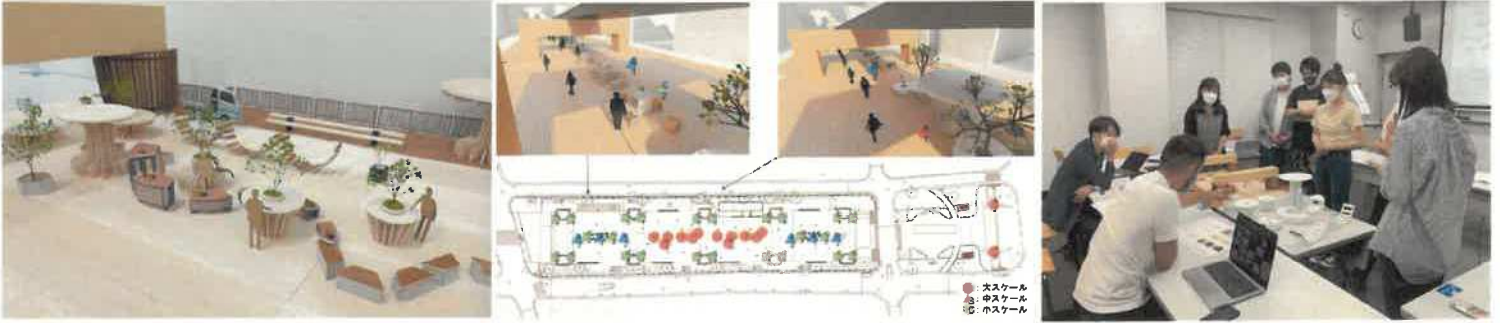


設計・デザイン：静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科建築・環境領域  
 亀井暁子研究室・丹羽哲矢研究室 公共空間プロジェクトチーム  
 宇佐美光里・島田沙紀・島屋拓海・森田奈那・中西龍平・藤岡蒼衣・堀江輝彦

制作協力・木工指導：鈴三材木店 新川モール運営・企画：HACK (新川モールデザイン監修 2id Architects)

計画作成

どのような要素が人と空間をつなぐのか、個別要素としての検討および複合した場合のありかたを検討。人の滞在の様子や使われ方を現地にて調査・分析した上でデザイン案を作成。検討案は模型やCG等によって評価・検証し、定期的な打ち合わせにて運用観点のコメントを頂きながら計画案を確定する。



部材切り出し

制作方法の検討と構成部材の切り出し。木工CNCルーターShopBotの使い方について指導を受ける。



部材の仮組み

部材の仮組により細部の調整をはかり、現地での最終組み立てに備える。木工の出張指導を受ける。



現地組み立て

設置現場に搬入し、最終組み立て、調整。学生も工具の使い方に関わり、スムーズに進んだ。



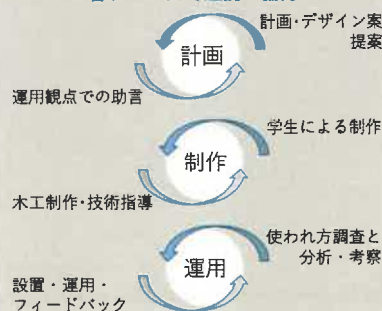
計画、制作、運用などの各フェーズで常に打ち合わせを行い、連携・協働していくことによって、単独では実現しえないプロジェクトを具現化することができた。

\*新川モール：にぎわいを創出し、中心市街地の魅力を向上させるため浜松市によって設置された、鉄道高架下広場。



鉄道高架下広場「新川モール」の指定管理者。多彩な専門分野のメンバーによる、まちづくりに関する事業を通してまちなかの賑わいを生み出している。

各フェーズで連携・協力



静岡文化芸術大学

浜松市の中心市街地に立地する県立大学。デザイン学部には建築を学ぶ学生がいる。実務家教員も多く、地域とつながる実践的教育と活動を連携させ実践している。